



## イラク：「イスラーム国」が第二の米国人を処刑

2014年9月3日早朝（日本時間）、「イスラーム国」が殺害を予告していたアメリカ人のステイーブン・ジョエル・ソトロフを「アメリカへの第2のメッセージ」と称して斬首する映像を発表した。映像には、殺害されたアメリカ人によるオバマ大統領がアメリカ人の生命とアメリカの国益を守るためにイラクでの爆撃を続けたことにより自分が死ぬ羽目になったとの嘆きや、斬首を担当した「イスラーム国」の者がアーミルリー、ザンマール、モスル・ダムを挙げてアメリカ軍による爆撃が人質殺害につながったと主張する場面が収録されている。さらに、イギリス人のデイビッド・カウソーン・ヘインズを引き出し、爆撃が続く場合は今後も人質の斬首が続くと予告した。

### 評価

8月19日に斬首されたジェームス・フォーリーに続き、「イスラーム国」によりアメリカ人が斬首された。この間、アメリカ軍によるイラク爆撃は続いていたため、このような結果は予想可能なものだったといえる。また、今後もアメリカ政府が「イスラーム国」の脅迫に屈することは考えられないため、「第3」、「第4」のメッセージと称する斬首が続く恐れがある。短期間のうちにアメリカ人の斬首が続いたことに対する世論の反応によっては、「イスラーム国」への攻撃強化など、イラク・シリア情勢へのアメリカの関与が深くなることも予想される。

一方、「イスラーム国」の主張は「アメリカのイラクへの干渉排除」である。このような主張からは、「イスラーム国」がアメリカ軍の爆撃がなければイラクでの戦局が自らにとって有利であると認識している節がうかがえる。ただし、「イスラーム国」のようなイスラーム過激派にとっては、「イスラーム世界全体」に対するアメリカの侵略を排除するためにアメリカ人・アメリカ権益への攻撃が優先事項となるべきだが、これまでのメッセージからは「イスラーム国」の関心事項がイラクでの局地的な戦局に集中している。この点に、スンナ派全体を代表する「カリフ制」を僭称しつつも、実際にはイラク・シリアでの戦局と権益奪取にしか関心がない「イスラーム国」の実態が示唆されている。

今後の懸案事項は、次の処刑の候補者としてイギリス人が引き出されたことである。これは、イラクでの「イスラーム国」への爆撃を積極的に支援・支持しているイギリスに対する脅迫としての意味を持つ。今後、イラクでの軍事作戦に直接参加していなくとも、「イスラーム国」に対するアメリカの政策を支持する諸国に向けて「メッセージ」が発信される恐れがある。これは、「イスラーム国」による邦人拘束情報もある我が国にとっても対岸の火事ではない。

（イスラーム過激派モニター班）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799